



資料館報

第37号

編集 平成29年3月31日
発行 高森町歴史民俗資料館
長野県下伊那郡高森町
下市田2243
電話(0265)35-7083
印刷 (有)雨宮印刷
電話(0265)22-6027



高森町歴史民俗資料館「時の駅」

富本銭（県宝）

目次

○あいさつ	2	●資料館所蔵展	11
○平成28年度事業報告	3	●ほかいびと 井上井月と下伊那	11
○資料館委員会等の活動記録	4~5	●ひな人形と美人画展	12
○「時の駅」講座	5~6	●町民ギャラリー展	12
○時の駅特別講座「松岡氏と井伊氏」	7	○学校・地域との連携	13
○特別講演会「信濃武士松岡三家と井伊氏」	7	○親子体験教室	13
○研究調査報告「井上井月と下伊那」	8~9	○平成28年度の記録	14~16
○平成28年度企画・特別展		○平成28年度資料寄贈者	16
●五月人形・東京木目込み人形展	10	○編集後記	16
●大河ドラマ『おんな城主井伊直虎』と高森	10		

● ごあいさつ



高森町長 熊谷 元尋

NHK 大河ドラマ「おんな城主 直虎」が放送されています。町は、直虎ゆかりの地として注目され、直虎の許婚、「亀之丞」が 10 年余過ごした松源寺や松岡城址、そして資料館には多くの人が訪れています。

資料館には、青葉の笛（複製品）が展示され、直虎ブームに一役買っています。本当に大河ドラマの効果が大きいことを感じます。

町ではこの機会を捉え、町の歴史を再発見するとともに、町の事をもっと知っていただけるよう取り組むとともに、このブームを一過性のイベントで終わらせるのではなく、次年度以降に活かしていきたいと思います。

資料館には、普段は立ち寄らないという方が多いと思いますが、一度立ち寄ってみてください。きっと新しい発見があると思います。

10 年後はリニア中央新幹線が開通します。町には東京から 40 分、名古屋からは 20 分で来ることができます。町民の皆さんももちろんですが、町を訪れる皆さんに町の歴史を知っていただくために、資料館の役割は益々大きくなります。これからも、生涯学習の拠点として、多くの方々に立ち寄ってもらうことができるような資料館になることを願っています。



教育長 光沢 郁夫

大河ドラマ「おんな城主・直虎」の効果により、ツアーチケットはじめ、多くの皆さんが松源寺や松岡城址を訪れ、予想以上の賑わいを見せています。ここを訪れる人々に対するボランティア・ガイドの皆さんのが温かい“おもてなし”に改めて敬意と感謝を申し上げます。

資料館では、この直虎効果を切り口に、松岡氏や松岡城址のことをもっと広く知ってもらう機会として、新たに特別展「おんな城主・直虎と高森」を開設したほか、作家の梓沢要さんをお招きし、「松岡氏と井伊氏・伊那と遠江を結ぶ絆」と題して特別講座も開催しています。

まちづくりの基本は、その土地の歴史や文化を知ることに始まると言われています。この大河ドラマが、町民の皆さんに、町の歴史や文化について更に関心をもってもらう“きっかけ”となり、魅力ある地域資源として、ふるさとの発展につながることを期待しています。

新年度も、知的関心を高める「時の駅」講座や趣向を凝らした数々の展示を計画しています。是非、多くの皆様のご来場を頂きたいと思います。この一年間、お力添えを頂きました関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、資料館報第 37 号に寄せる言葉とします。



資料館運営委員長 松島 悅男

今年度の資料館利用者が約 1 万人に迫る盛況であり、ご来館の皆様と関係各位に深謝申し上げます。

「時の駅」講座①は滝本住職が「獅子舞の由来はユーラシアで仏の使いが仏教の教えをあるべき道に導くという一連の物語が出来ている」と実演を観てから瑠璃寺の獅子舞の歴史的意義を語られた。講座②で清水氏が「伊那自由大学と高森」で大正期の青年は学問の自由と社会正義に燃え、「貧富の格差解消」や「教育の機会均等」等の問題を追求し、本町からも 2 人の青年が参加し現在の社会と同じと語った。講座③で本島氏は「ほかい人・井月」について映画鑑賞の後「我々には手の届かないほど美しく尊い人格の持ち主、物欲を逸脱し、風雅の道に殉じた生涯」と語り、俳人 井上井月の生き方は現代の豊か過ぎる飽食社会に向けた警鐘だと語る。三講座を通じ、高森の無形文化財の重要さに目を開かせられました。

大河ドラマ「直虎」の盛り上がりを期待します。下克上・戦乱の世に強大な大名たちに翻弄されながらも自身を犠牲にして井伊家受難時代を駆け抜けた美しくも悲しい「直虎・直親」の物語です。領民を愛し、領民から信頼された直虎の崇高な精神は後世へ永遠に伝承される事と信じます。

◆平成 28 年度 事業報告◆

館長 松 上 清 志

高森町歴史民俗資料館が設立されてから 37 年目を迎えた本年度は、大河ドラマとの関連もあり、町内外の多くの方々に見学していただき、施設もご利用いただきました。町民の皆様の温かいご支援、ご指導に心から感謝申上げ、平成 28 年度の事業報告をさせていただきます。



[1] 企画・特別展

- | | |
|--|------------|
| ①五月人形と武具展・東京木目込み人形展（千鶴萌会）(5月) | 〈 912 名〉 |
| ②特別展「大河ドラマおんな城主井伊直虎と高森」(7月 1 日～9月 4 日) | 〈 1,728 名〉 |
| ③特別展「資料館所蔵作品展」(9月 6 日～9月 30 日) | 〈 448 名〉 |
| ④特別展「ほかいびと井上井月と下伊那」(11月 1 日～12月 4 日) | 〈 813 名〉 |
| ⑤雛人形と美人画展（3月） | 〈 941 名〉 |
| ○三校児童・生徒作品展 ○餅つき・小正月飾り作り体験教室（1月 9 日） | 〈 60 名〉 |
| ○夏休み親子体験教室 第一講座「富本錢レプリカづくり」第二講座「勾玉づくり」第三講座「糸取り・飾りひも作り」第四講座「土器づくり」を 7 月 30 日(81 名参加)と 7 月 31 日(44 名参加)に行った。 | |

[2] 「時の駅」講座（17 年次）

- | | |
|--|-------------|
| ①第 1 講座 7 月 2 日（土）「瑠璃寺の獅子舞～その物語をかたる～」 | 瀧本 慈宗氏 70 名 |
| ②特別講座 9 月 3 日（土）「松岡氏と井伊氏 一伊那と遠江をつなぐ絆一」 | 梓澤 要氏 230 名 |
| ③第 2 講座 10 月 22 日（土）「伊那自由大学と高森 一大正期の下伊那青年運動一」 | 清水 迪夫氏 32 名 |
| ④第 3 講座 11 月 26 日（土）「井上井月と下伊那 一残された日記より知れること一」 | 本島 恭則氏 44 名 |

[3] 古文書研究会

- 吉澤章氏を講師に毎月第 3 木曜日に実施（うち 1 回は館外；飯島町での研修）
- 2 月は、山内尚巳氏に講師を依頼して特別古文書研究会を実施し、町内外から 33 名が参加。

[4] 『高森町史』を読む会

- 発足して 2 年目に入り、毎月第 4 木曜日に約 20 名ほどの参加で実施した。
- 11 月に松源寺や松岡城址などのフィールド学習、2 月 4 日に鈴川博氏に講師を依頼し、松岡氏についての二回目の講演会を行った。（41 名参加）

[5] 委員会の活動

- | |
|---|
| ① 運営委員会 資料館の運営について協議。4 回開催（他に小正月飾り作り体験教室で臨時に 2 回開催） |
| ② 調査委員会 「高森町の年中行事」を調査し、5 回開催（小正月飾り作り教室にも参加） |

[6] 委員・職員研修視察

- 10 月 4 日(火)、5 日(水) 富本錢や松岡氏など、高森町とのつながりがある群馬県内の遺跡や史跡、博物館を訪ねて研修した。

[7] 学社連携事業

- | |
|--|
| ① 資料館と学校が連携して授業を実施。 高森南小 3 ～ 6 年（16 学級）、高森北小 3 ～ 6 年（4 学級）、
高森南小探険クラブ(2回) 高森中 1 年（4 学級）、町外の 3 小学校（6 学級） |
| ② 農業体験ホームステイで来町した県外の中学生が見学のため来館（4 グループ） |
| ・町内外の小・中学校の子どもたちが社会科や総合学習等で資料館を積極的に活用してくれ、土器に触れたり、古い生活用具を動かしたりできる体験コーナーは好評であった。また、松岡城址や武陵地 1 号古墳、惣兵衛堤防、下市田学校等の史跡での現地学習の支援も行った。 |

[8] 入館者数

平成 28 年度の入館者数は 9,881 名（昭和 54 年の開館からは 233,868 名）

- 保育園や高森町教職員、社協いきいき俱楽部、牛牧老人クラブ、下市田史談会、中学校の同窓会など町内外の多くの方に展示を見学していただいた。また、高森町史学会、下市田一区自治会、柿の里短歌フォーラム、野菜づくり教室、南信州高森 BC 等の団体に施設をご利用いただいた。

[9] その他

- 本年も、天理教高森支部、建設労連の皆さんのが奉仕作業を実施して下さり、内外の環境が整備され感謝している。ホームページの運用が軌道にのり、情報をリアルタイムに発信できた。

資料館 委員会等の記録

1 資料館運営委員会

〈委 員〉

松島 悅男 下沢 貢
林 マリ子 松村 行彦
座光寺 永子

〔運営委員会の主な活動〕

○定例委員会 4 回 展示検討委員会 2 回

- ・資料館「時の駅」の運営に関わり様々な提言をした。今年度は「考古部門展示替え」にかかわり定例委員会以外に展示検討委員会を 2 回開催し、展示内容・展示品・展示方法等について検討を重ねた。
- ・また、夏休み親子体験教室、小正月飾りづくり教室の指導も行った。



小正月飾り指導

2 資料館調査委員会

〈委 員〉

(山 吹) 塩澤 孝・橋都 洋治
(吉 田) 中塚 悟・中塚 美弘
(下市田) 片桐 猛・唐木 孝治
中村 忠敬
(上市田) 下平 清志
(牛 牧) 加藤 清
(大島山) 本島 義文
(出 原) 畑中 定喜

〔調査委員会の主な活動〕

○定例委員会 5 回

- ・「高森町の年中行事」について調査活動を進め、12・1月の行事、2月～7月の行事、8月～11月の行事の 3 グループに分かれ執筆を開始した。29年度は小委員会を設けて原稿を整え、30年3月発刊する。
- ・小正月飾りづくりでは、伝統的行事についての話ををして飾りつけの指導をした。

3 古文書研究会

〈組 織〉

会長 手塚 勝昭 (吉田)
副会長 本島 恭則 (吉田)
会計 鈴木 信孝 (下市田)
監事 松村 一 (下市田)
講師 吉澤 章 (飯田市)
顧問 原 次郎 (下市田)
福島 壽子 (下市田)
小林 正人 (牛牧)
幹事 松上 清志・横井みつ子 (資料館)
会員 36 名 (内 12 名は町外の会員))

〔活 動〕

○定例会 (毎月第 3 木曜日)

関川家文書を中心に、講師の吉澤さんに解説していただき、読み深めた。7月の館外研修は、飯島家文書、飯島城跡などを、会員の飯島さんの案内で巡った。

○古文書特別研究会

山内尚巳さんを講師に迎え、上市田宿の中馬、伝馬、水戸浪士通行にかかわる関川家文書を読み、研究を深めた。



町史を読む会
現地見学(松源寺)

4 高森町史を読む会

〈組 織〉

会長 近藤 昭弘 (下市田)
副会長 羽生 宏敬 (下市田)
会計 横井みつ子 (資料館)
会員 33 名 (内 4 名は町外の会員)

〔活 動〕

○定例会 (毎月第 4 木曜日)

2 年目を迎えた町史を読む会では、松岡氏以外の「中世」の項を、分担して読み深め、引き続き座光寺氏をはじめ、「近世」の項目を読み進めた。

○特別講演会

鈴川博さんを講師に迎え、「信濃武士松岡三家と井伊氏」と題しての講演を聴いた。

28年度資料館委員研修視察 上野の城館跡と古代史を訪ねる

資料館運営委員、調査委員の研修視察を行いました。今回は、群馬県方面へ改易後の松岡氏の足跡、大竹の座光寺館、井伊直政の高崎城や箕輪城、真田氏の岩櫃城などの城館跡や、群馬県立歴史博物館、群馬県埋蔵文化財事業団発掘情報館、かみつけの里博物館などを見学しました。

高崎城や箕輪城では、市の担当者から詳しい話が聞けましたが、やはり井伊直政に助けられた松岡貞利のその後については不明なままでした。史蹟整備・活用という観点からは、真田氏の岩櫃城も含め参考になる所が多くあり、また博物館施設をいくつか見学したが、こちらも展示替えに向けて大いに参考になりました。



岩櫃城跡



高崎城跡



群馬県埋蔵文化財事業団発掘情報館



保渡田古墳群

充実の「時の駅」講座

第 17 回目を迎えた「時の駅」講座は、梓澤要さんの特別講座も加えると 4 講座をおこないました。どの講座も充実した内容で、受講された皆さんは熱心に聞き入っていました。なお、時の駅講座の記録はまだ有りますので、希望される方は資料館「時の駅」にご連絡ください。(TEL35-7083)

第1講座『瑠璃寺の獅子舞～その物語をかたる～』

7月2日 70名受講

講師：瑠璃寺住職
瀧本 慶宗 氏

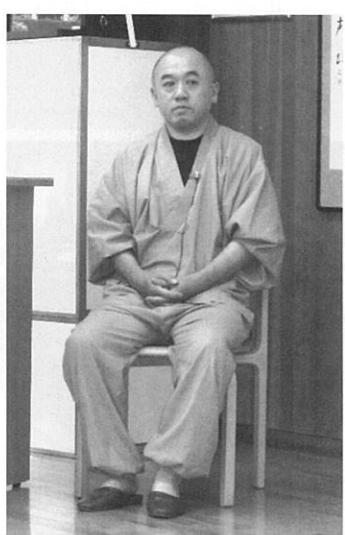
伊那谷の獅子舞のルーツともいわれる 900 年の伝統を誇る瑠璃寺の獅子舞。その発生、大型化への過程、陵王の舞の復活についてなど、大変わかりやすくお話しいただきました。普段は外で見られない「陵王の舞」も特別に披露してくれました。伝統文化の宝庫伊那谷に息づく獅子舞。その魅力を感じさせられる講座でした。



陵王の舞を披露



受講された皆さん



講師の瀧本 慶宗 氏

第2講座『伊那自由大学と高森～大正期の下伊那青年運動～』

10月22日 32名受講
講師：飯田市歴史研究所
市民研究員 清水 迪夫 氏

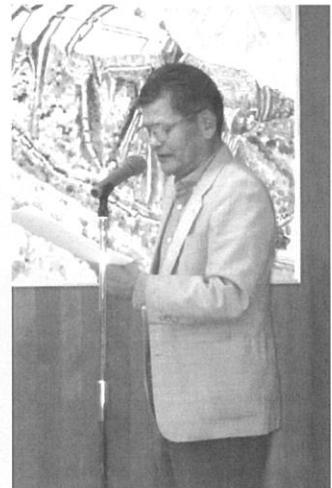


講師の清水迪夫さん

大正時代、下伊那の地にあった下伊那青年運動と伊那自由大学運動という二つの青年運動。この民主主義運動にかかわった高森の二人の青年の真摯な姿を通して、戦後 70 年を経て混沌とした今日の社会を私たちはどう生きていかなくてはならないのか、改めて示唆された講座でした。



受講された皆さん



松島運営委員長挨拶

第3講座『井上井月と下伊那～残された日記より知れること～』

11月26日 44名受講
講師：高森町史学会副会長
本島 恒則 氏

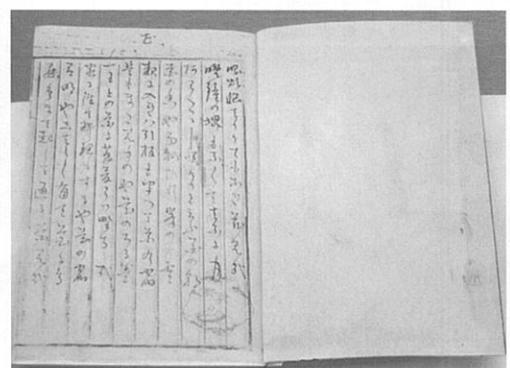
ご自宅に井月が逗留し、句が残されていたことから研究を始めたという講師。未発表の句の紹介もあり、また、井月の日記から下伊那での足取りを復元したりする中で、人間味あふれる漂白俳人井上井月の魅力をたっぷりと語ってくれた講座でした。講座の前には「ほかいびと」の映画鑑賞会（34 名参加）行いました。



講師の本島恒則さん



受講された皆さん



本島平太郎学習帳

時の駅 特別講演会 「松岡氏と井伊氏 伊那と遠江を結ぶ絆」

駅講座 特別講演会



講師の梓澤 要さん

9月3日 230名受講

大河ドラマ放送決定を受け、主人公井伊直虎の許婚亀之丞が匿われていた松源寺や松岡氏と井伊氏の関係に注目が集まる中、「女にこそあれ次郎法師」の作者、梓澤要さんをお招きしての講演会でした。梓澤さんは、ご自身の小説をベースに、直虎の出家、地頭としての活躍、亀之丞とのかかわり、井伊氏と松岡氏の法縁、絆にも触れて当時の遠州、井伊谷を取り巻く歴史的背景を熱く語っていただきました。大河ドラマの展開が楽しみになった講演会でした。



230名を超える聴講者



著書にサインされる梓澤さん

高森町史を読む会 特別講演会

2月4日 41名受講

「信濃武士松岡三家の誕生と井伊氏」



講師の鈴川 博さん

昨年に引き続き、鈴川さんから「松岡之せんそ之事」を基に、松岡三家（牛牧松岡氏・市田松岡氏・吉田松岡氏）の成立についてや松岡氏と井伊氏のかかわりについてもお話しいただきました。



講演会の様子



近藤会長の挨拶

研究調査報告

「ほかいびと 井月と下伊那」

館長 松上 清志

はじめに

2016年11月19日の朝日新聞の「土曜日特集版」で『無能の人』に登場した俳人、姿は乞食、書はお公家さん」と紹介されたのが井上井月である。漂泊の俳人、放浪の俳人とも称された井月は、幕末の伊那谷にひょっこりとやってきて、三十年余り家も持たず、妻も子もな

く明治の半ばまで伊那谷で過ごし、冬の田んぼに行き倒れた。最後の句は、「何処やらに鶴の声聞く霞かな」だったという。この井月の下伊那での足跡を追った特別展を今年度秋に行ったので、ここでは調査報告としてまとめてみた。



下島空谷筆「井月の面影」

1、ほかいびと 井月

当時の伊那谷は、田や畠の作物だけでなく、養蚕も盛んで、農村では俳句（その頃は発句）が盛んで、仕事の合間には五・七・五の句を作りて楽しんでいた。そんな伊那が気に入ったのか、井月

は「時鳥 旅なれ衣脱ぐ日かな」といった句を詠んでいる。

伊那谷の家々に残された俳句は1800にも及び、一宿一飯のお礼にと置いた挨拶句のほか、伊那谷の風景を詠ったものが多く、伊那の人々は、親しみを込めて「井月さん」と呼んでいた。

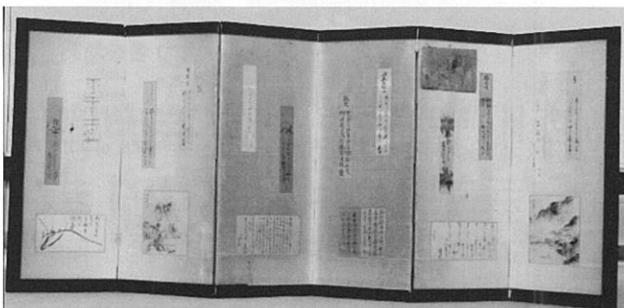
井月さんのスタイルといえば、くたびれた着物の上に羽



井月が持っていたと伝えられる木刀

織、袴をつけることが多かったという。腰にはヒョウタン、そして矢立をさし、古ぼけた小さな竹の行李と風呂敷包を両掛けにしていた。痩せて背が高く、髪やヒゲ、眉毛も薄く、杖をつきながら牛よりも遅い歩調でトボトボと歩いていたと語り伝えられている。酒好きの井月さんに自家製のどぶろくをふるまってくれる家もあった。「翌日しらぬ 身の楽しさや 花に酒」浮かれ気分の井月さんは、「千両、千両」と言いながら、一宿一飯のお礼に、五・七・五の俳句を、それは見事な筆字で書いて置いていくのだった。だから、物乞いだけをする乞食ではなく、「ほかいびと」だった。発見された晩年の日記には、宿泊した家が100軒、昼飯に寄った家は200軒にのぼっていた。

井月がどこで生まれたのか、どういう家で育ったのかが、はっきりしてきたのは井月が亡くなった後だった。1822年（文政22）、越後の長岡生まれ、長岡藩の下層の武士であったという。武士を捨て、俳諧を生涯の仕事としてきたが、己の境涯を一切語らぬまま、第二のふるさとの伊那の地で1887年（明治20）に66歳で亡くなつた。「浮雲氣な 富は願はず 紙衾」



井月の8つの句が読み取れる中村家の屏風

2、下伊那での井月

飯田との関わりを井月自身が「今を去る事拾有五年、飯田（伊那郡）におゐて紅葉の摺りものゝ舉あり」と記している。この年が1861年（文久元）で、井月が40歳だと思われる。

その後、井月は何回か下伊那に足を向けていると思われるが、はっきりしているのは彼が残した晩年の日記に記されている3回だけである。

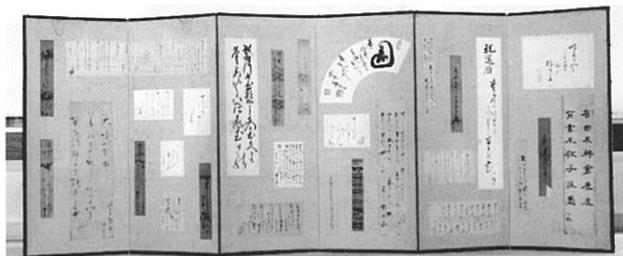
1回目は、1884年（明治17）63歳の井月は6月28日から7月4日まで下伊那を歩いている。泊った家は、市田の中村藤雄宅と松源寺、吉田の本

島平太郎宅。立ち寄った所は大島の藤田宅、市田校、上郷の南里亭、座光寺の茶店であった。

2回目は、同年の8月20日から29日までを下伊那で過ごしている。泊った家は市田の松源精舎、飯田の阿弥陀寺、吉田の荻之屋。立ち寄った所として市田校、田義理、座光寺の店が記されている。

3回目は、次の年の3月27日から4月5日まで下伊那を巡っている。泊った家は松源寺、座光寺の湯澤家、市田の中村家。立ち寄った所は中村家、南里亭、荻之屋、松源寺、山吹新田の酒屋、海藏寺であった。

この日記から、井月が立ち寄る所や泊まる場



井月の5つの句が読み取れる久保田家の屏風

所がほぼ決まっており、俳句仲間である。2回目の8月22日には松源精舎で5人が集まって社中集会を行っている。しかし、南里亭、田義理、海藏寺の3ヶ所が、現在のどこを指すのかがわからない。また、井月が訪ねても相手が留守、という記述も目立つ。

3、高森町に残る井月の句

井月が世に出たのは芥川龍之介の強い推薦があり、伊那出身の下島空谷が1921年（大正10）に『井月の句集』を発刊したことに始まる。その後、下島勲・高津才治郎編『漂泊俳人井月全集』が1930年（昭和5）に発刊され、これを手にした漂泊の俳人種田山頭火が井月に憧れ、亡くなる1年前に井月の墓を訪れた。

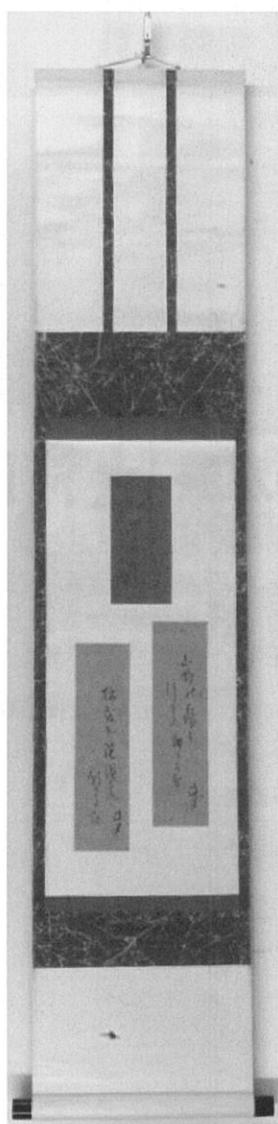
現在、井月自筆のもので、下伊那に残っている句は、29句が確認されている。高森町吉田の本島家には掛軸や短冊として16句、同じ吉田の久保田家には屏風に5句、高森町下市田の中村家にも屏風に8句が残されている。その中で全集に載っていない新句が7句あることがわかった。いずれも本島家のものであるが、ここではその句を紹介する。

- | | |
|--------------------|-----|
| ①わくら葉の 雨飛ちりて ほととぎす | 井月 |
| ②夕立や 浮雲く見ゆる 空の窓 | 井月 |
| ③山鳩の 鳴につつまる 茂りかな | 井月 |
| ④柿散や 洗濯ものの 朝まだき | 井月 |
| ⑤夕陰や 蛾もてなす 草の露 | 柳の家 |
| ⑥短か夜や 狸が所作の はらづみ | 狂言寺 |
| ⑦姿鏡に 采女が影や 杜宇 | 柳の家 |

まとめにかえて

風狂に生き、ほかいびとの俳諧師であった井月を三十年余り支え、俳句作りにいそしんだ伊那谷の人々がいたことにまず驚く。現在であつたら、井月は施設に収容されてしまったかも知れない。それだけ幕末から明治にかけての伊那谷では、ほかいびとを許容して、支援する社会が成立していたともいえる。それは、上伊那だけでなく下伊那でも同じような社会であったことがわかった。

しかし、日記で一寸気になったのは、井月が訪ねても「留守」とメモされている家が目立つ。俳句好きの当主が井月の訪問を喜んでも、その家の女衆は、シラミだらけの井月を嫌ったとも聞いた。「留守」とは、そんな事情が関係しているのだろうか？ そんな気持ちを察せられない井月ではない。子どもたちに石を投げつけられた時もあったといふ。嫌われ、蔑まれても俳句仲間を訪ね歩く井月の強さ、自らを苦しい環境に置くながで作句する井月の凄まじい生き方を思わずにはいられない。



井月が詠んだ新句二句が読み取れる本島家に残された掛軸

**企
画
展**

平成 28 年度 企画・特別展
**五月人形と武具&
東京木目込み人形**

恒例の企画展です。武具の展示では、刀の銘が見えるように展示了しました。水戸浪士郡司照光が残していくつた刀（吉田神社所蔵）の展示が注目を集めました。五月人形と合わせ、所蔵の甲冑も全て展示してもらいました。東京木目込み人形の皆さんの展示は、今回が最後となりましたが力作で飾ってくれました。

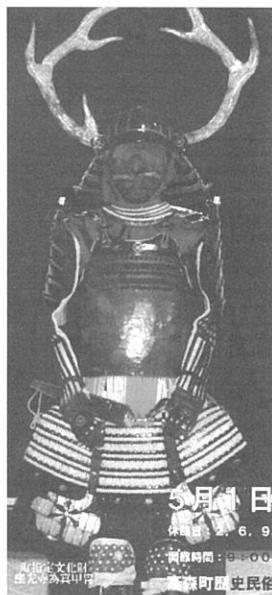


郡司輝光の遺刀



五月人形

5月1日～5月31日
入館者 912名



**企画展
五月人形と武具**

同時開催・東京木目込み人形展『大人の女子会』

5月1日～31日
毎週土曜日 6. 9. 16. 23. 30日
開館時間：9:00～16:30
高森町文化財保存会主催
高森町歴史民俗資料館「時の駅」



所蔵甲冑展



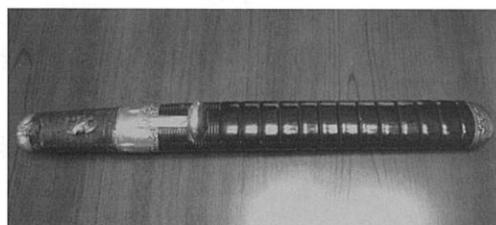
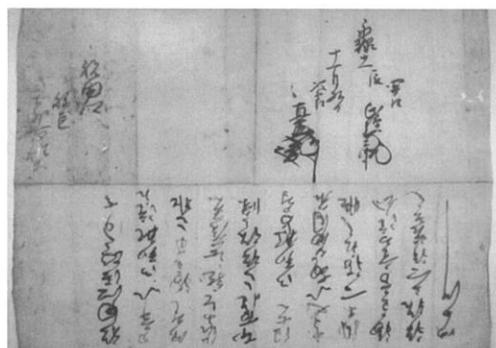
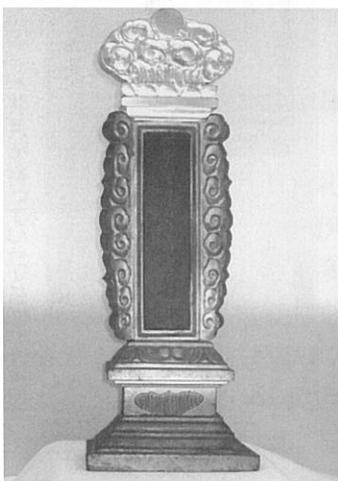
木目込み人形

特別展「大河ドラマ『おんな城主 井伊直虎』と高森」

松岡氏と法縁のある井伊直虎の大河ドラマ放送決定を受け、直虎はもちろん、井伊氏と松岡氏の関係亀之丞と高森の関係、さらにはその時代背景などを、事前に理解していただこうと特別展を行いました。亀之丞が残した短刀も展示することができました。

「直虎」花押徳政令

井伊直親公位牌



7月1日～9月4日
入館者 1,728名



亀之丞の残した短刀（伝）

特別展 直虎・亀之丞（直親）の生きた時代 法縁で結ばれた井伊谷と高森

7月1日（金）～9月4日（日）
9:00～16:30 休館日：月曜日・祝日の翌日
大人200円・小中高生100円
高森町歴史民俗資料館「時の駅」
TEL 0265-35-0083

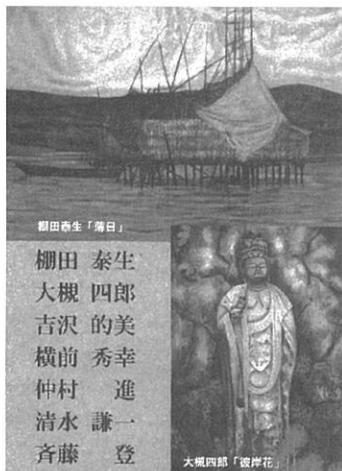
9月3日（土）
「おにこそれ恋の恋恋」上演
作者 梶原 聰さん 演出会
高森町福祉センター大ホール

特別展

「資料館所蔵品展～絵画～」

9月6日～10月2日 入館者 448名

資料館「時の駅」では、郷土作家の絵画作品も多く所蔵しています。是非公開してほしいという要望もあり、今回は7名の作家の作品を展示しました。これからも計画的に公開していきます。

特別展
資料館所蔵絵画展

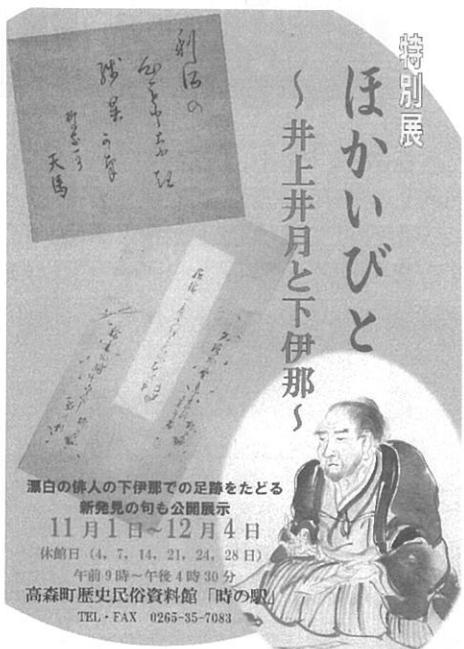
見学される皆さん



展示作品の一部

特別展「ほかいびと井上井月と下伊那」11月1日～12月4日
入館者 813名

漂白の俳人、井上井月は下伊那に多くの足跡を残しています。本島家で発見された新句の掛け軸を中心に、中村家、久保田家の屏風も初めて公開することができました。また、発見されたばかりの井月愛用の杖も展示して、下伊那における井月の活動に思いを寄せるることができました。



漂白の俳人の下伊那での足跡をたどる
新発見の句も公開展示

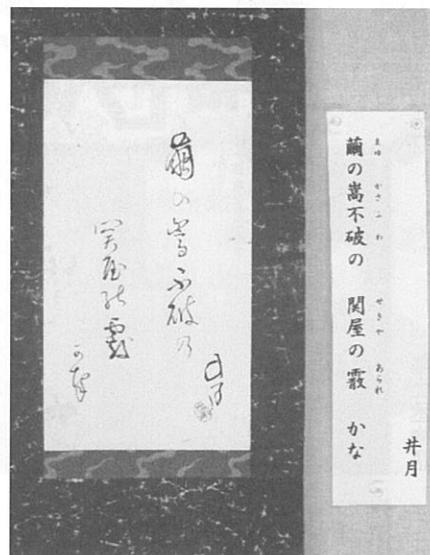
11月1日～12月4日

休館日 (4, 7, 14, 21, 24, 28日)

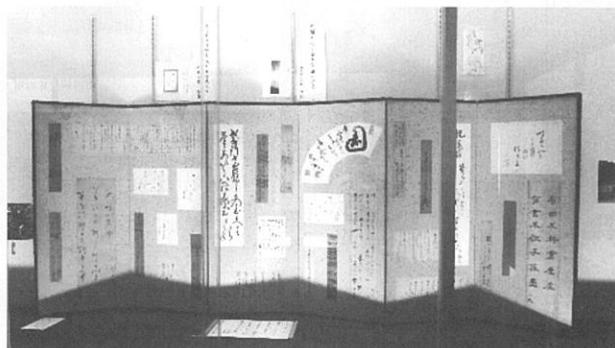
午前9時～午後4時30分

高森町歴史民俗資料館「時の駅」

TEL・FAX 0265-35-7083

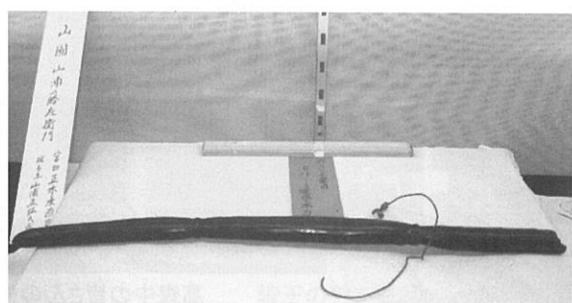


本島家の掛け軸



久保田家屏風

井上井月の愛用した杖





3月1日～4月3日
入館者 941名



ひな人形と美人画展

恒例の企画展です。たくさんの保育園児の皆さんおひな様に会いに訪れます。江戸末期から明治期にかけての古今雛の展示が勢ぞろいしています。昭和30年代の御殿雛も貴重なものです。美人画展も好評でした。



保育園の
子供たちも見学に

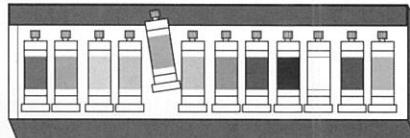


御殿雛



美人画展

町民ギャラリー展示



亀之丞物語



町民ギャラリーでは、高森南小、北小、高森中学校の児童生徒の皆さん作品を展示しました。また、特別展が終わった後も、「直虎」のコーナーを設けて、大河ドラマには出てこない「史実」を展示しています。

高森南小の皆さん作品



直虎展示コーナー



高森北小の皆さん作品

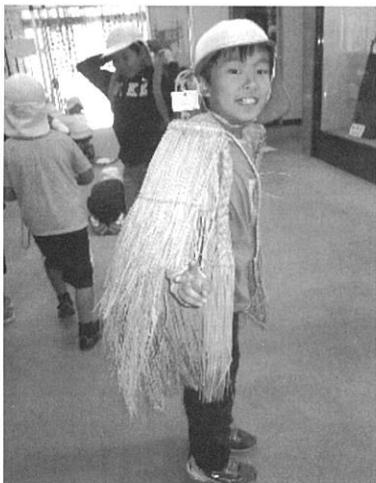


高森中の皆さん作品



学校・地域との連携

高森南小 3~6 年、高森北小 3~6 年、高森中 1 年、松尾小 3 年、阿智第一小・第二小 3 年の皆さん利用がありました。他にもデイサービスの皆さん活用や、「直虎」に関わって地域に出かけて講演等行いました。



「みの」を着けてみる



農家の部屋見学



市田柿の学習



惣兵衛堤防の見学



石臼をひく



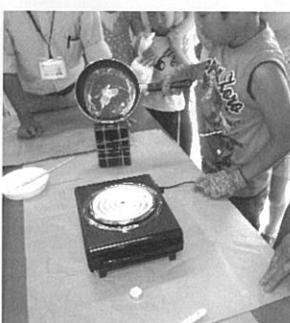
夏休み親子体験教室 小正月飾りづくり体験教室

参加者：夏休み 125 人
小正月飾り 60 人

夏休み親子体験教室は7月 30 日、31 日の二日間、富本銭レプリカづくり、まが玉作り、糸取り・飾り紐づくり、土器づくりを行いました。まが玉作りは定員を超える盛況でした。体験を通して歴史を学ぶことができました。小正月飾りづくり、運営委員・調査委員の皆さん指導で、今年は持ち帰り用のミニ飾りも作りました。



土器づくり



富本銭レプリカづくり



まが玉づくり



もちつき



糸とり



もち花



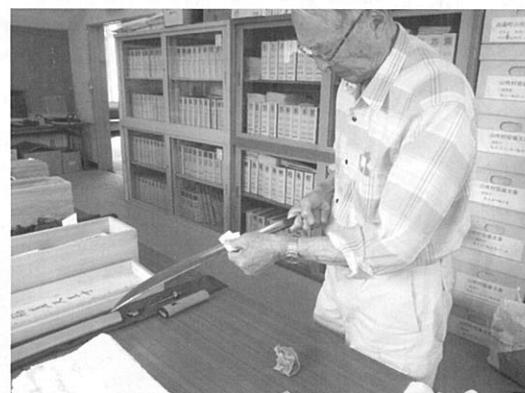
小正月飾りできたよ

* * * 平成 28 年度の記録 * * *

		利 用 団 体 名 称 と 人 数
4月	町内	美人画教室(10) 野菜づくり教室(26) 史学会役員会(5) 古文書研究会(30) 町史学会幹事会(17) 町史学会総会(29) 高森町史を読む会役員会(3) 高森少年野球(18) 資料館運営委員会(8) 高森町史役員会(3) 資料館調査委員会(13) 木目込み人形(14) 高森町史を読む会(20) 天理教ボランティア(18) 高森中野球部(12)
	町外	龍潭寺御詠歌クラブ(36) 下条村(12) 浜松駅発着ツアー(38)
5月	町内	南小6年生(130) 野菜づくり教室(28) 千鶴萌会(6) 少年野球(22) 地名研究会役員会(5) 古文書研究会(27) 下市田おもしろ科学教室(47) 高森町史を読む会(22) 大河ドラマ打合せ(9) 資料館活用委員会(5) タカート調査隊(4)
	町外	名古屋駅発着産地バスツアー(36) 古代伊那郡研究会(11) 古道・塩の道同好会(6) 映画大学(5) 松尾小遠足下見(4) 西宮の中学校(4) 和の里の会(27) 松尾小3年(114) 地名研究会役員会(6) 大阪三陵中(3)
6月	町内	ビスケット出前授業 2回(40) 資料館調査委員会(11) 公民館運営協議会研修(15) 東京木目込人形(15) チームほったかもりふるさと巡り(42) 資料館運営委員会(7) 高森町史学会幹事会(7) 高森町文化財調査委員会(7) 野菜づくり教室(29) 建設労連(4) 古文書研究会(27) 給食センター工事工程会議(11) 高森町史を読む会(19) 民俗芸能保存団体連絡会(20) 柿の里短歌フォーラム(52) 建設労連(9) 吉田西シニアクラブ(25) 南小探検クラブ(16) 調理場工事説明会(30)
	町外	浜松蜂前神社(21) 西春近老人会(9) 鷹匠中学校(13)



天理教の皆さんボランティア作業(4月)



刀剣手入(4月)



こいのぼり掲揚(5月)



調理場建設に伴う樹木譲渡(5月)

利 用 团 体 名 称 と 人 数		
7月	町内	時の駅講座(70) 県観光協会(9) 社協いきいきクラブ(98) 少年野球(30) 高森町史学会幹事会(14) 古文書研究会(25)野菜づくり教室(28)町史学会史跡巡り(60)町史を読む会(20) 町職員展示説明会(6)親子体験教室(125)新任職員研修(19)
	町外	立川美術館(8) トップガイドツアー(7) 副町村長研修会(25) 東伊那郷土研究会(24) 立川流(10)
8月	町内	資料館活用委員会(7) ビスケット(27) 係会(4) 役場職員青年部研修(14) 野菜づくり教室(30) 愛護会(5) 役場職員青年部(14) 下市田史談会(15) 古文書研究会(23) 高森北小職員(19) 町議産業建設委員会(9) 文化財調査委員会(8) 町史を読む会(19) 南小探検クラブ(18) 総務民生委員会(8) 下市田女性ふるさと(33) 南小野牧学級(5)
	町外	平出博物館(42) 昭和音楽大学フルート班(26)
9月	町内	牛牧老人クラブ(30) 野菜づくり教室(29) 時の駅特別講座(230) 南小探検クラブ(19) 町シニア大学(28) 資料館運営委員会(7) 古文書研究会(27) 資料館調査委員会(11) ホームページ(4) 竜口老人クラブ(34)
	町外	松川町コミカフェ(14) 三遠民俗歴史研究会(21) 井の国会(41) 洋史学会(15) 農業体験親子(24)
10月	町内	老人クラブ北部ブロック連絡会(50) 高森中1年生(143) 高森町史学会幹事会(18) 野菜づくり教室(27) 高森中1年生(70) 市田32会(19) 高森中(3) 古文書研究会(22) 時の駅講座(32) 育種寺子屋公開授業(44) 高森町史を読む会(16) ボランティアガイド打合せ(15) 土器野焼(27) かぶとづくり(35)
	町外	浜松葵歴史同好会(38) 浜松葵歴史愛好会(34) 浜松中小企業団体中央会(20) 浜松ホームステイ中学生(9) 阿智第一小学校(35) 地方事務所3県連絡会(15)
11月	町内	かぶとづくり(8) BUNKA I L E(10) 高森南小4年1組(29)、4年2・3組(57名)、4組(28) 下市田史談会(16) 古文書研究会(26) 町史を読む会(22) ほかいびと映画会(34) 時の駅講座(44) 資料館運営委員会(10)
	町外	阿部県知事一行(7) 北部町村教育委員会研修会(30) 上久堅を学ぶ会(18) 川路公民館(7) 姫街道未来塾(20) 出張ガイド(36) 飯田観光協会(22)

いきいきクラブの
皆さん見学(7月)

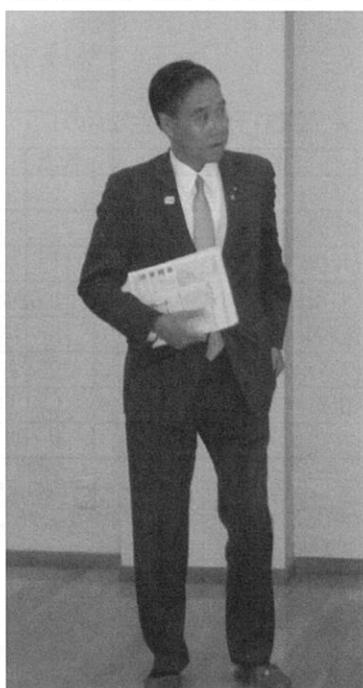
阿部長野県知事の来館(11月)



土器の野焼き(10月)



兜を作ろう(10月)



		利 用 团 体 名 称 と 人 数
12 月	町内	町史学会幹事会(18) 南小6年2組(31) 係会(4) 町文化財調査委員会(8) 古文書研究会(24) 山吹区役員(6) 高森町史を読む会(14)
	町外	上郷史学会(20) 南信州観光公社(21)
1月	町内	資料館運営委員会(5) 資料館調査委員会(11) 小正月飾り教室(60) 古文書研究会(26) 南小3年生(149) 小正月飾り片付け(8) HP打ち合わせ(4) 小正月餅花渡し(37) 史学会幹事会(15) 町議(9) 山吹上(32) 新田成人(27)
	町外	小牧シルバー(21)
2月	町内	南小3年出前授業(147) 高森町史を読む会特別講演会(41) 資料館活用委員会(7) 古文書特別研究会(33) ボランティアガイド打合せ会(23) 町史を読む会(16名) 出張ガイド(3) 少年野球(58) 北小4年生(23)
	町外	アイ・ツーリスト(104) 浜松市議(6) 松本安原地区(16) アイ・ツーリスト(22) トラビスジャパン(12)
3月	町内	資料館運営委員会(6) 高森北小3年(33) 吉田保育園(145) 資料館調査委員会(13) 下市田保育園(25) シニア大学十六夜会(12) 古文書研究会(23) 食生活改善グループ(17) 少年野球(5) 高森町史学会幹事会(17) ガイド会議(24) 高森町史を読む会(12)
	町外	阿智第2小(13) シニア大学38期生(36) マナベルツアー(36) 伴野史学会(11) 出前ガイド(17)

正月飾り
(12月)山内尚巳さんの古文書
特別研究会(2月)

入館者数：平成 28 年度及び昭和 54 年 11 月の開館以降の累計

★平成 28 年度	9,881 名 (町内 6,861 名 町外 3,020 名)
★開館以降の累計	233,868 名 (町内 184,181 名 町外 49,687 名)

平成 28 年度 資料寄贈者御芳名

★ 書籍・刊行物(主なもの)

品 名	数量	氏 名	住 所
真田一族と幸村の城	1	山名美和子	東京
女城主・井伊直虎	2	楠戸義昭	東京
井伊直虎物語	3	浜松歴女探検隊	浜松市
旧川路村の小字	1	今村理則	飯田市
城主になった女井伊直虎	1	梓澤 要	静岡県
井の国物語	1	谷 光洋	東京
伊那の井月さん	1	井上井月顕彰会	伊那市
高森ゴルフ場の記録	1	原 正秋	高森町

★ 民俗資料・その他

品 名	数量	氏 名	住 所
カラオケセット	1	吉田南分館	吉田
竿ばかり	1	吉川柏夫	座光寺
棚田泰生画伯絵画	7	原 和秋	東京
大豆漬け機	1	北条政一	山吹
井上井月俳句掛軸	8	本島恭則	吉田
井上井月俳句短冊	1	本島恭則	吉田

編集後記

大河ドラマ『おんな城主直虎』がスタートし、松岡城や松源寺へは連日多くの観光客が訪れています。資料館では梓澤要さんの講演会や特別展、直虎&亀の丞コーナーなどを設けて情報を提供してきました。ドラマの脚色により史実と異なる部分も映像化されていくを考えると、史実に基いた情報を発信するという資料館としての大変な役割を改めて認識させられたところです。(主事:芦部公一)